人権・同和教育シリーズ176

第14回菊池市人権フェスティバル特選作品

【作文の部】

「修学旅行で平和について考えたこと」

隈府小学校6年　城（じょう）　沙耶（さや）

私は、戦争のおそろしさを知った。私たち6年生は、修学旅行で長崎に行った。戦争の事を学ぶために、城山・山里小学校・平和公園・原爆資料館・原爆落下中心地・浦上天主堂・如己堂（にょこどう）に行った。

それぞれの場所から伝わってくる悲しみが、とても大きくこわかった。私は、「とてもこわくて悲しくなっても、ちゃんと学んでくる」と、心に決めて行った。

まず私は、如己堂に行き、永井隆（ながいたかし）博士の事を学んだ。永井博士が戦争で失ったものや自分の病気とたたかう気持ちが悲しさと共に伝わってきた。永井博士は、自分の事で大変でも周りの人のことを思いやさしく接していて、私には考えられない事だった。戦争で緑夫人を失っているのにもかかわらず被爆者の手当てを行っていたのは、「己れの如く隣人を愛せよ」という如己堂の意味と同じで、人にやさしい永井博士だからこそできた事だと思った。平和を願いつづけ自分のように隣人を愛した、この永井博士から私は平和のバトンを受けとった気がした。

次に、平和公園に行った。私たちは、平和祈念像に向かって構成詩で平和への願いを伝えた。一人一人の言葉、思いが耳から体全体にじいんとひびいた。私たちの思いをせいいっぱいに伝えた。伝わっている気がした。

平和公園の平和祈念像の一つ一つの部位が表す意味、そこにあった水からとても悲しみが伝わってきた。右手、左手、右足、左足、とじたまぶた、長崎の方々の思いがつまっている平和祈念像から戦争のおそろしさが体に染みわたってきた。私は、心の中で、「戦争は勝ちも負けもなく、あるのは人の悲しみ、苦しみ、ほろびだけ」と思いました。

私は、戦争のことを学んで、戦争はおそろしく、悲しく、人々の心を傷つけ、平和とは何かを長崎で感じた。私は、これから学んだ事を生活におきかえて、生かしていきたい。戦争は差別。だから私は、みんなにやさしくよりそった永井博士のようになりたい。戦争は悲さん。だから、仲間、友達をいやな気持ちにさせない。もし、させてしまったら、心から反省してあやまる。

こんなにたくさんの事を学べた私たちだからできることがあると思うので、長崎に行ったことを心の中に入れて、生かしていきたい。これからのためにも戦争の事について学べてよかった。人を、人の命を大切にしていきます。

問い合わせ先
人権啓発・男女共同参画推進課
☎0968(25)7209

【ポスターの部】

菊池南中学校1年、川口瑠璃（かわぐちるり）

韓国発見シリーズ73 こんにちは金（キム）です

国際観光マネージャー
金（キム）　相廷（サンジョン）

韓国の新型コロナウイルス感染症事情

国際ニュースを発信するロイター通信に、韓国の新型コロナウイルス関連で「あなたの喉ではなく手を濡らしなさい」という興味深い記事があった。内容は、世界で最もたくさん焼酎を生産販売する韓国の酒造会社が消毒剤製造用のアルコールが不足している事を聞き、焼酎の原料を防疫消毒用に寄付したというものだ。

コロナウイルス感染者が増える韓国では日本と同様、マスクと共にアルコール消毒剤が飛ぶように売れている。問題は消毒に必要な成分のエタノールの需要は急増しているのに、供給は追いついていないということだ。

そのためアルコール度数17～20度前後の蒸留酒の焼酎を製造するのに使われる酒精を希釈した酒造原料を約80トン寄付することにしたという。同社の代表は「事態が安定するまですべての損失を甘受し、これからも酒造原料を供給する計画だ」と語った。

韓国人は1週間に平均約12杯の焼酎を飲むという。この焼酎のエタノール成分は石油化学供給の原料にもなっている。酒として作られても殺菌として利用されても化学構造は同じである。

しかし、酒類製造業者が作ったエタノールには酒類税が課せられるという大きな違いがある。当初とは違う用途で使用される事を国内法では厳しく禁止している。

そこで焼酎メーカー各社は今回、税務当局に寄付のための特別許可を要請した。これに対し、過去の前例が全くないにもかかわらず、不法流通の可能性がなく、国家的危機解消に寄与するとの判断から、直ちに許可決定が下されたという。

このような美談をロイター通信が紹介した事に加え、現在感染者が集中している大邱（テグ）や慶尚（キョンサン）北道（ブクド）地域には大企業をはじめさまざまな団体や市民がボランティアとして援助や、寄付などの方法でコロナウイルス撲滅に力を注いでいる。

現在、コロナウイルスが全世界に拡散しているこの時、彼らが微力ながらお互いを助けようと示す気遣いや愛、優しさ、温かさは私たちの心に染み込み深い感動を覚える。